

Graphics with Processing



2010-15 CGシステムとCGの応用

<http://vilab.org>

塩澤秀和

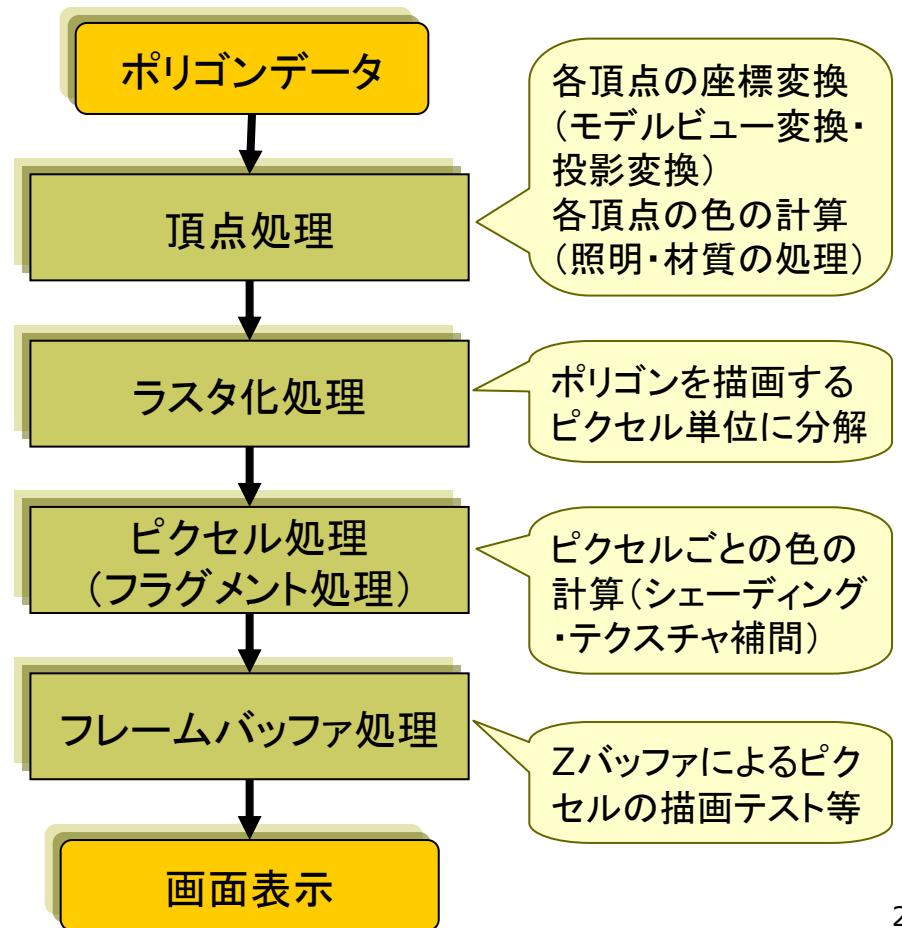
15.1 3DCGシステム

3DCG API(p.280)

- OpenGL (旧Silicon Graphics)
 - リアルタイムCG初期から
 - ハイエンドCGソフト, UNIX, iPhone, PS3, Wii(類似)など
- DirectX (Microsoft)
 - リアルタイムCG(特にゲーム)
 - Windows, Xbox
 - 高速性重視, 対応ハードが安い
- Java3D (Sun)
 - リアルタイムCGだが, 基本的に“シーディングラフ”というデータ構造への追加・削除で描画を制御
- RenderMan (Pixar)
 - 非リアルタイムCG(映像製作)
 - 映画製作で標準的

レンダリングパイプライン(p.284)

- 3DCGハードウェアでの処理



15.2 シェーダプログラミング

プログラマブルGPU

□ GPU

- Graphics Processing Unit
- 3DCG計算(特にリアルタイム)のための専用ハードウェア
- 今ではほぼすべてのPCが搭載

□ プログラマブルシェーダ

- GPUのレンダリング処理を用途に応じてカスタマイズできる機能
- CG技術が高度化・多様化し、固定機能では対応できなくなった
- 主にポリゴンのシェーディングやテクスチャ処理などを制御する

□ シェーダ言語(リアルタイム)

- Cg(nVidia), HLSL(DirectX), GLSL(OpenGL)

プログラマブルシェーダの機能

□ 頂点シェーダ

- 頂点処理(单一頂点の座標や色の処理)をプログラミング
- モデルビュー変換, 投影変換, 頂点色の計算(照明・材質処理), テクスチャ座標の算出

□ ジオメトリ(プリミティブ)シェーダ

- 頂点処理後, プリミティブ(点, 線分, 三角形)単位の処理を追加
- 頂点の増減, プリミティブの変更

□ ピクセル(フラグメント)シェーダ

- 頂点シェーダ等の結果を利用し, ピクセル処理をプログラミング
- シェーディング・マッピング処理, 画像処理的エフェクト

15.3 リアリティを追求するCG技術

物理計算の利用

□ 物理シミュレーション

- 見た目のリアルさはほぼ実現
⇒ 動きのリアルさへ
- 物理方程式を高速に数値計算
- 運動, 加速, 摩擦, 衝突, 飛散
- 流体, 弹性体, 髪の毛, 旗

□ パーティクル(粒子法)(p.91)

- 非常に多数の“粒子”を散らして運動(粒子の流れ)を計算
- 液体, 煙, 炎, 水しぶき, 雲などの全体的な動きを再現する

□ 物理計算エンジン

- 力学的な物体の運動を高速に計算するハードウェア
- GPGPU(GPUで並列数値計算)

イメージベーストレンダリング

□ 画像をCGに利用(p.240)

- CGと画像処理技術との融合
- テクスチャマッピングの応用
(撮影地点から画像を投影など)
- 写真から3Dモデルを自動生成
(イメージベースト モデリング)
- モーフィング, パノラマ画像生成

□ 実写とCGの融合

- 実写にCG映像を合成(AR), または, CGに実写映像を合成
- 自由視点画像: 限られた台数で撮影したカメラ映像から, 自由な視点からの映像を合成する
- イメージベースト ライティング:
画像の明暗から照明情報を得てCGを作成し, その中に合成する

15.4 CGの応用

建築・設計

□ CAD

- CAD=コンピュータ支援設計
- 製図・回路設計
- 建築設計
- 景観シミュレーション

エンターテインメント

□ コンピュータゲーム

- ゲームはCGとともに発展
- 2次元 → 3次元

□ 映画・アニメーション

- SF映画
- アニメーション
- 実写映像への波や嵐の追加

人間との対話環境

□ ユーザインターフェース

- GUI, ウィンドウシステム
- 3Dユーザインターフェース

□ バーチャルリアリティ(VR)

- 3次元仮想空間
- オーグメンテッドリアリティ(AR)
(現実空間にCGを合成する)

可視化(visualization)

□ 医療・科学・教育

- データを見るようにする
- 科学データの分析

□ 情報可視化

- 情報分析のための可視化
- 図解的利用、「見える化」